

第1788回 例会 (令和7年6月20日)

本日のプログラム 一年を振り返って 会長・幹事・委員長未発表者

前例会の記録 (第1787回 令和7年6月13日)

- ・会員数 40名
- ・出席者 34名 ・出席率 87・18% (出席免除者出席2名)
- ・欠席者 5名 江原公平・白神雅夫・高橋剛吉・福嶋啓祐・宮本大三の諸君
- ・出席免除者 3名 奥野千秋・岡辺賢二・大嶋元義君
- ・5月23日メーキャップ後の出席率 89・19%→91・89%に補正
5月18日地区ワークショップへ、中濱康幸君
- ・ゲスト 高橋和成様・加治木良郎様・梅本紗和子さん・佐藤加恋さん・藤井心華さん
- ・ビジター なし
- ・会長報告 本日は、国際ロータリー創立120年と110日に当たり、笠岡東ロータリークラブは創立38年と181日に当たります。

定例理事会報告です。①事務所のパソコン購入の件承認しました。②事務所コピー機リース満了に伴い新機種でのリース契約については、他社の見積もりを取ることで再検討となりました。③笠岡市花火大会後の清掃ボランティア依頼の件は、個人レベルでの参加とすることで承認しました。

6月7日(土)、第3回会長幹事会が新見において開催され、私と金政幹事、池田副会長、中濱副幹事の4名で参加して参りました。

6月8日(日)、ゆっくり走ろう会行事として、因島白竜山登山へ16名の方々をご参加されました。

6月12日(木)、地区行動計画推進リーダーズーム会議が開催され、原田、吉岡、中濱会員、私の4名で参加いたしました。

・幹事報告 榊原ガバナー事務所より、6月8日ステファニー A アーチック RI 会長よりのメールにて、次年度マリオ・デ・カマルゴ RI 会長エレクトより、個人的・ビジネス面の懸念により辞任が必要であるとの理由で、2025-26年度ロータリー会長としての職を辞するという通知を受領したことをお知らせ申し上げます。との内容のメールを頂いております。

笠岡 RC 枝木次期ガバナー補佐より、次年度第1回会長幹事会のご案内をいただいております。

日時：R7年7月12日(土) 17:00~20:00 場所：辻与 会費：7,000円

新見 RC より、第6グループ IM 記録 USB をご送付いただいております。

・委員会報告 なし ・配布 週報 ロータリーの友 ・食事 とんかつ定食

◎スマイル

新井善久君 龍谷高校より高橋様、加治木様、生徒の皆様ようこそお出で下さいました。卓話どうぞよろしくお願いいたします。

池田 孝君 高橋先生はじめ多くの人に来ていただきありがとうございます。

金政一孝君 ゆっくり走ろう会参加された皆様お疲れ様でした。企画して下さった長舗会員ありがとうございました。龍谷高校の皆さん本日の卓話楽しみしています。

中濱康幸君 龍谷高校の皆様本日はよろしく申し上げます。新旧会長幹事会へ行ってきました。7月12日に新年度の会長幹事会が開催されます。

池田周二君 ゆっくり走ろう会の遠足に多数参加していただきありがとうございました。

吉岡孝恭君 父吉岡洋介の合同葬が6月29日に行われます。12時から2時の間で会葬をお願いします。

小川隆則・三島大尚君 ゲストの皆様卓話よろしくお願いします。

工藤一郎君 ゆっくり走ろう会とても楽しい日でした。お世話頂きました皆様に感謝します。

山本大介君 金光学園バレー部がインターハイに行きます。

山本雅夫君 早退します。 江原公平君 忙しくてお休みします。

スマイル 55,000円

●プログラム「タンポポの分布を通してみる笠岡湾干拓地の自然復元を評価する」 ゲスト：高橋和成講師 発表者：梅本紗和子・佐藤加恋・藤井心華さん

私たちは、2年間タンポポの分布を通して笠岡湾干拓地の自然復元を、評価する研究を行いました。この研究で岡山県学生科学賞の県知事賞を、受賞することができました。

笠岡湾干拓は1966年から1990年まで行われ、現在は農業地として利用されています。この干拓地でも外来生物が増えています。タンポポにおいても同じことが起きています。

タンポポには在来タンポポと外来タンポポがあります。まず初めに研究仮説を立てました。

★埋め立て後47年経過した農耕地周辺では野草群落の自然復元が進んでいる

★風散布されるタンポポ類においては在来タンポポも定着している

調査方法は3つあります。1 区画分割法 2 植生調査 土壌調査 発芽生育実験 3 風散布実験

結果はセイヨウタンポポ(外来種)は広く分布していましたが、カンサイタンポポ(在来種)は1か所のみでした。カンサイタンポポ、シロバナタンポポ(在来種)は、昔からの耕作地や道べりにありました。在来タンポポが生えている場所は、シバ、チガヤ、アリドウシ、ヤエムガラ、キュウリグサ、スイバなど特定の植物が生えていました。カンサイタンポポは、多年生がセイヨウタンポポより多くありました。カンサイタンポポが生えている所は、外来種の植物が侵入しないことがわかりました。外来種の植物は多くはヨーロッパが原産地です。在来種は外来種に比べ PH が低く、電気伝導度も低いことから土壌が成熟している所に、生育します。混植実験でカンサイタンポポは、セイヨウタンポポに成長が抑制されることが、わかりました。種子を比べるとカンサイタンポポは、実が大きく柄が短いため遠くまで飛ぶことができません。

まとめ ①干拓地畦畔は非干拓地の植生まで復元していなかった。②在来種の生育は限定的で、昔からの自然にも変化があった。③耕作地の管理方法が影響していた。④在来種は土壌環境の影響を受けた。⑤在来種は種子散布力、成長速度において外来種に劣っていた。⑥空白地への拡散や定着は外来種が優先するため、在来種は圧迫されている可能性があった。

考察 ①タンポポ群落調査は自然環境の指標となる。②外来と在来の群落の類似度指数は0.496で、干拓後47年経過しても地域の生態系まで復元しないと云える。③昔からの農地環境も在来種に好適とは言えなくなっている。④里地の在来タンポポ野草群落は保全すべき貴重な存在である。⑤大規模開発は日本の自然に回復困難なダメージを与えるため、SDGs で生物多様性や生態系を譲ることは大きな課題と考える。

以上私たちの研究発表でした。本日はこのような貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

次週以降のプログラム&行事予定

6/27(金) 第4例会→28日(土)に変更

6/28(土) 会長幹事慰労会&岡辺賢二会員送別夜間例会 19:00~ 甲羅本店福山店

6/29(日) 吉岡洋介氏合同市民葬 時間:11:00~12:00 場所:笠岡グランドホテル

★上記終了後一般参列者の方は、12:00~14:00の間でお願いしますとのこと